

2013年6月29日

多様な言語の中で育つ子どもたちへの支援
～可児市国際交流協会の取組～

特定非営利活動法人可児市国際交流協会

事務局長 各務 眞弓

1. 可児市の現状

可児市は岐阜県の中南部にあり、木曾川南岸に位置しています。名古屋市や岐阜市などのベッドタウンとして発展し、自動車関連の工場や県下最大といわれる工業団地などに、労働力として外国人が急増しました。現在は、可児市人口の5.2%にあたる5,386人の外国人が居住しています。ブラジル人2,533人、フィリピン人1,975人とで約83%を占めています。ピーク時は7.2%で、減少を続けていますが、フィリピンの人たちは増加しているのが現状です。その中で外国人児童、生徒は350人を超えています。

2. 可児市国際交流協会

可児市国際交流協会（以下協会）は「うちなる国際化」を目指して2000年に市民が可児市の協力のもと設立されました。同時期にブラジル人学校が開校したこともあり外国人の子どもの教育に関心を持って取り組んできました。2003年～2004年にかけて、外国人の子どもの教育環境調査を協働し、調査結果から市への提言があり可児市は「外国人児童生徒の学習保障事業」を策定し不就学ゼロを目指して取り組んでいます。

<http://www.city.kani.lg.jp/view.rbz?of=1&ik=0&pnp=14&cd=1130> また、可児市は2008年多文化共生センターフレビア（以下フレビア）を開設し、協会が指定管理者として、フレビアの管理運営を行っています。フレビアでは、情報提供、日本語学習支援、交流の場づくり、相談窓口の4つの事業を行っています。協会は2つの事業の一つが指定管理事業、もう一つがフレビアを拠点としての、多文化共生に係わる事業です。

フレビアを拠点とし日本語学習支援や文化体験、語学講座など自主活動やコミュニティー団体支援として、フィリピンコミュニティー団体OCJの活動や地域活動への支援、演劇ユニット「MICHU」との防災やビジネスマナーなどの研修、多文化育児サークルEarthBabiesとの協働で料理教室や子育てママの日本語などを実施しています。こうした活動や活動支援を通じ多文化共生を推進しています。

3. 外国人の子どもの支援

可児市における外国人の子どもの支援は、就学前の子どもへの準備指導から不就学、不登校の就学支援で学校への円滑な転入を支援し、公立学校の子どもたちへは、学習支援、母語支援を行っています。義務教育年齢を超えた子どもへの支援は、高校進学支援、中学卒業程度認定試験対策教室を実施しています。

就学前の教室は、日本語のコミュニケーションと学校のルールを中心に指導しました。給食指導や童謡、工作など学校での生活で知っていることができることが増えるよう指導しています。また、保護者への取組として親子学習会、参観日、懇談会修了式など、保護者が学校のことや入学後の子どものことに関心をもってもらえるような取組も行い、また学校への、情

報提供を行い連携を深めました。今年は、相談もあったことから前倒して「おひさま教室」をすでに行っています。10月からの「ひよこ教室」の前に集団生活や日本語になれるための教室です。昨年から概念や語彙を増やすため、母語保持のために母語指導も行っています。

義務教育年齢を超えた子どもの支援として「さつき教室」は、毎日10時～16時まで担任を決め、高校進学をめざし日本語や教科の勉強をしています。2012年度から岐阜県も多文化共生の重点施策として外国人のこどもの高校進学支援事業を行っており、3年間の補助事業を受け「かがやき教室」を実施し、中学卒業程度認定試験対策、高校進学の日本語指導、高校生のための補習教室と3つの教室を実施しています。2008年から本格的に取り組んだ高校進学支援ですが、参加人数に比べ高校進学者は少ないです。理由として、帰国、就労（アルバイトがあればそのまま辞めてしまう）などで、1年間高校に行きたい気持ちを持ち続け、また家族もそれを支援することが、とても大変だということです。高校進学を見据えたとき、小学校、就学前の子どもたちへの支援がとても重要になります。また、不就学、不登校への支援として「ゆめ教室」では、学校への円滑な転入を目指し、日本語や教科、活動や地域交流を通じて習得できるような取組を行っています。ダブルリミットや親子間のコミュニケーションの問題もあり、子どものポルトガル語の教室も実施しています。2012年度は、100人以上来ていた子どもたちが、今年度は半分の53人になっていますが、帰国した時はもちろん、帰国しなくても母語保持により、自己肯定、学習意欲や自信につながっている。日常会話に問題がないとしても、学校の成績が伴わず悩んでいる子も多い。そうした時に親子間でコミュニケーションがうまく取れていないと、悩みをうまく解消できずに自信をなくし不登校、引きこもりの原因となっている場合があります。

この地域に生まれ育った子どもたちが、地域に見守られながら健全に暮らせるよう取組を始めています。社会貢献、ボランティアといった活動を通じ、地域社会とつながり、自分の存在意義や将来を考える力をつけてほしいと取り組んでいます。本当に救いたい子どもたちが来てくれるのには、時間がかかるかもしれませんが、地域で知っている大人を増やしていくことができれば、地域の一員として、お互いの意識が変わってくるのではないかと活動を進めています。